ISSN 1349-7804

京都大学言語学研究

第 25 号

論 文

Japanese temporal connectives: ~*tara, tokoro, toki*
— A pragmatic analysis — ..... Priya ANANTH 1

A sketch on the morphosyntax of Kadorih (Dohoi: Austronesian) Kazuya INAGAKI 41

チノ語 -mɤ の「多機能性」— 漢藏語と対照しながら — ..... 林 範彦 67

ダパ語紅頂 [Ngwirdei] 方言の音声分析と方言特徴 ..... 鈴木 博之 105

サルデーニャ語ログドーロ方言における母音間閉鎖音の弱化について
— chain shift の観点から — ..... 金澤 雄介 131

談話管理理論からみた「じゃない (か)」の基本的性質
..... ワンプラディット アパサラ キク 157

現代韓国語のアスペクト形式 ⟨-ko iss-⟩ の意味分析
— 日本語の「-ている」との比較の観点から — ..... 金 京愛 187

否定文におけるフォーカス構造の実態
— 日本語・ロシア語文の観察をもとに — ..... エブセーバ エレナ 217

京都大学言語学懇話会 2005–2006 年度活動報告 257

2006

京都大学
大学院文学研究科
言語学研究室

「京都大学言語学研究」（26号）の原稿募集について

京都大学言語学研究（26号）の原稿を募集します。投稿される方は次の執筆要項によりご提出下さい。

執筆要項

1. 提出原稿

- 原稿種別は以下の通りとする。
  - 研究論文、研究ノート、懇話会要旨
- 完全原稿を提出すること。
- 印刷原稿、電子記録媒体（FD, MO, CD-R など）、もしくは電子メールでの投稿を受け付ける。別途用紙もしくは電子ファイルに以下の項目を記載して提出すること。
  - 題目
  - 執筆者名 ふりがな
  - 原稿種別（研究論文、研究ノート、懇話会要旨）
  - ページ数（要旨は含めない）
  - 所属機関
  - 連絡先（郵便番号、住所、電話・FAX 番号、e-mail アドレス）
- 電子ファイルで提出する場合は、PDF 形式で提出すること。
- 提出原稿に特殊なフォントが含まれている場合、当該フォントが埋め込まれている PDF で提出することが望ましい。
- PDF 以外のファイル形式で提出する場合は編集委員会までご相談下さい。

2. 研究論文

- **原稿枚数**　原則として、図表などを含め A4 版用紙 30 枚以内とする。これを超える原稿についても投稿を受け付けるが、採用された場合でも、掲載が 27 号以降になることがある。
- **文字のサイズ**　日本語論文は明朝体 12 ポイント（1 行 37 字程度）・1 ページ 35 行程度、欧文論文は Times 系 12 ポイント・1 ページ 35 行程度（1.5 スペース程度）とする。
- **原稿の余白設定等**　各ページのマージンを上下左右: 30、35、30、30mm とる。印刷原稿で提出する場合、ページ番号は印字せず、右下隅に鉛筆で記入する。
- **タイトルと氏名**　1 ページ目のはじめにタイトルと氏名（中央揃え）を入れること。タイトルは 14 ポイント太字とする。なお、タイトルの上部には 2 行分の余白を設け、タイトルと氏名の間に 1 行分、氏名と本文はじまりとの間に 2 行分の余白を設ける。

- **注について**　注は通し番号をつけ、各ページの末尾におく。文字サイズは10から11ポイントとすることが望ましい。
- **要旨**　A4版用紙1枚の要旨を付ける。要旨は本文と異なる言語で書くのが望ましい。原稿のスタイルやタイトルと氏名の体裁については上記に準ずる。要旨文のはじまりの左上部に「要旨」「Abstract」等と太字で表記し、要旨文のはじまりとの間に1行分の余白を設けること。
- **採否**　編集委員会で決定し、原稿受付より二ヶ月以内に採否を連絡する。
- **原稿締切日**　原稿は随時受け付ける。ただし、2007年6月30日を過ぎて到着した論文については、採用された場合第26号ではなく、それ以降の号への掲載とする。

3. 研究ノート

原稿枚数、体裁、採否、原稿締切日等は研究論文に準ずる。

4. 懇話会要旨

- 「京都大学言語学懇話会」での発表の要旨を掲載する。原稿枚数は、A4版用紙1枚とする。
- その他、スタイル等は、論文に準ずる。
- 原稿締切日は、発表当日とする。

5. 連絡先

投稿は下記住所にて受け付けます。

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学大学院文学研究科言語学研究室
電話 / Fax: (075) 753-2827
電子メール: KULR-edit@ling.bun.kyoto-u.ac.jp

6. その他

- 原稿及び電子記録媒体は原則として返却いたしません。
- LaTeXで執筆する場合は、上記の書式に合わせたスタイルファイルを用意していますので、編集委員まで御連絡下さい。
- 抜き刷りは50部とし、印刷費用は原則として投稿者にご負担いただきます。また、希望される方には実費にて増刷を行うことができます。
- 執筆者には、掲載号を一部進呈いたします。
- 第26号は、2007年12月発行を予定しています。
- 京都大学言語学研究室は、掲載原稿を電子的な手段で公開・配布する権利を有するものとします。
- 各著者が掲載原稿を電子的な手段で公開・配布する場合は、その出典（号数、ページ数）を明記して下さい。

編集後記

『京都大学言語学研究』（第 25 号）の発行に際し、多くの方々からのご協力を賜りました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

次号の締切は 6 月末日となっております。皆様のご投稿を心よりお待ちしております。なお、当編集委員会のメールアドレスが下記のように変わりましたのでご注意下さい。今後とも『京都大学言語学研究』をよろしくお願いいたします。

旧: KULR-hensyuu@ling.bun.kyoto-u.ac.jp
新: KULR-edit@ling.bun.kyoto-u.ac.jp

編集委員長

『京都大学言語学研究』 第25号
Kyoto University Linguistic Research Vol. 25

2006年12月25日 発行

編集委員長 川田 拓也
副編集委員長 金澤 雄介 松本 亮
編集委員 稲垣 和也 エヴセーヴァ・エレナ 岡田理恵子
越智サユリ 金 京愛 倉橋 農 佐藤 昭裕 嶋田 珠巳
白井 聡子 鈴木 博之 田窪 行則 田村 早苗 富田 愛佳
中村 千衛 稗田 乃 藪 司郎 吉田 和彦 吉田 豊
ロスコシュニ・イワン ワンプラディット・アパサラ (五十音順)

発行者 京都大学大学院文学研究科言語学研究室
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
電話: (075) 753-2827 http://ling.bun.kyoto-u.ac.jp/

Edited by Kawada Takuya Kanazawa Yusuke Matsumoto Ryo
Inagaki Kazuya Evseeva Elena Okada Rieko Ochi Sayuri
Kim Kyung-ae Kurahasi Minori Sato Akihiro Shimada Tamami
Shirai Satoko Suzuki Hiroyuki Takubo Yukinori Tamura Sanae
Tomita Aika Nakamura Chie Hieda Osamu Yabu Shiro
Yoshida Kazuhiko Yoshida Yutaka Roskoshny Ivan Wungpradit Apasara

Published by Department of Linguistics
Graduate School of Letters, Kyoto University
Yoshida-Honmachi, Sakyo-ku, Kyoto
606-8501 Japan

© 京都大学言語学研究室 2006 Printed in Japan ISSN 1349-7804

Kyoto University Linguistic Research

Vol. 25

Articles

Priya ANANTH: Japanese temporal connectives: *~tara, tokoro, toki*
— A pragmatic analysis — 1

Kazuya INAGAKI: A sketch on the morphosyntax of Kadorih (Dohoi: Austronesian) . 41

Norihiko HAYASHI: "Polyfunctionality" of Jino -mɤ
— Contrast with Sino-Tibetan languages — 67

Hiroyuki SUZUKI: nDrapa Ngwirdei dialect: Phonetic analysis 105

Yusuke KANAZAWA: The lenition of intervocalic stops in Logudorese Sardinian
— From a chain shift point of view — 131

Apasara Kiku WUNGPRADIT:
Basic properties of the sentence final expression ~ *janai(ka)* 157

Kyung-ae KIM: On the difference of aspectual meaning
between Korean '*-ko iss-*' and Japanese '*-te iru*' 187

Elena EVSEEVA: Patterns of focus structure in negated sentences
— based on the observation of Japanese and Russian — 217

The annual report of Kyoto University Linguistic Colloquia 2005–2006 257

2006

Department of Linguistics
Graduate School of Letters
Kyoto University